

精神科医療機関における従事者の確保について

現状と課題

- 精神科(神経科を含む)に従事する医師数は、他科の医師と比較して、高い割合で増加してきている。
- 病院に勤務する医師の増加のペースが鈍い一方、精神科診療所に勤務する医師は急速に増加しており、他科と同様、免許取得から10~20年程度で、病院等から診療所への勤務に移行する医師が多くなっている。
- 精神科に従事する看護職員等のコメディカルの数は、徐々に増加している。しかし、全科の看護職員の総数と比較すると、精神科に従事する看護職員の増加のペースは鈍い傾向にある。
- 医学部の定員増等、医療従事者の養成や確保の取り組みが進められているが、全体として従事者数は有限であり、養成数の増加が実際の従事者数の増加に効果を及ぼすには長い時間を要する。

検討

- 国民のニーズ及び若手医師のキャリア形成の双方に資するよう、学会・医療機関等が連携して、若手の医療従事者の養成の充実を図ることにより、精神医療への魅力を高め、精神科の従事者の確保を図ることが求められる。
- 精神病床の医療の質の向上を図るために、段階的に看護職員等の人員基準の充実を目指すべきではないか。(「入院医療における病床等の機能」の論点を参照)
- その上で、医療従事者数が有限であることを踏まえ、精神医療の中でも、最も必要な分野に重点的に医療従事者を確保する必要があるのではないか。
- 具体的には、在宅医療、救急・急性期医療、精神・身体合併症に対する医療、各領域の専門医療等、今後需要の見込まれる分野に勤務する医療従事者が相対的に増加し、長期入院患者の病棟等に勤務する医療従事者が相対的に減少するよう、施策を講じるべきではないか。その際、新たな分野に従事する者への研修等についても考慮するべきではないか。
- 確保の難しい医師・看護師の業務を軽減する観点も踏まえ、他の職種に従事者の資質の向上や更なる活用について、どう考えるか。